資料1

第2回
産業データサブワーキンググループ

事務局資料

第2回 アジェンダ

日時：令和6年7月30日(火)：13:30 - 16:00
場所：オンライン

アジェンダ	スピーカー	時間
オープニング • 第1回の振り返り • 本日の議論ポイント • プレゼンテーション・事例の一覧	事務局（BCG）	10分
プレゼンテーション・事例のご紹介	プレゼンテーター ファシリテーション: 生貝座長	60分
全体ディスカッション	ディスカッション: 全員 ファシリテーション: 生貝座長	70分
今後の進め方、クロージング	事務局（BCG）	5分
		145分 (5分バッファー)

オープニング

- 第1回の振り返り
- 本日の議論ポイント
- プレゼンテーション・事例の一覧

プレゼンテーション・事例のご紹介

全体ディスカッション

今後の進め方、クロージング

第1回のご意見を踏まえた整理

- 本SubWGでは、企業及び産業競争力を念頭に、データ越境にかかるリスク・打ち手の整理を行う

カテゴリー		主なご指摘事項	対応の方向性
目的・実現したいこと		誰の視点・価値に立ったマニュアルとするか	企業のデータ利活用促進を目的の主眼に置くが、産業全体の競争力の保護・強化も価値に含める
		内容・パターンが多岐にわたる中、どこまで網羅的なマニュアル作成を目指すか	網羅性を担保するものではなく、参考・有用となる実例を盛り込む
スコープ・定義	データの定義	データの対象範囲・スコープは何か(個人データ、地図・ゲノムデータ、AI学習用画像データ等)	産業データとして、越境が発生しうる企業が保有するデータを全て検討スコープに含む • 特に営業情報、技術情報等の産業競争力に影響するデータに焦点 また国内・海外等で生成されたデータが海外・第三国等に移転・越境する場面に加え、必ずしも越境しなくとも海外での生成データが同域内・国で活用される場面も対象に含む
	リスクの可視化	法規制に関してどこまで深ぼるか • 対象の国 • 分析範囲（規制の背景・良し悪し）	基本的に過去調査結果に基づく情報共有とする • SubWG検討において、有識者・委員が認識・保有する情報について、可能な限り追加する
	対応・打ち手	全社組織・ガバナンス体制に関して、どこまで対応を深ぼるか	全社組織・ガバナンス体制の体系的な整理は行わないが、組織的な打ち手として、データ越境に関連する打ち手を盛り込む

第2回SubWGの位置づけ

- 本日は個別事例の紹介を踏まえ、具体的なリスク・打ち手の議論を行う

	議論の流れ	論点
第1回 (5月30日)	• 前提・背景の確認 • 議論のスコープや方向性の議論 • データ共有・活用の類型の確認・議論 　- 実例の洗い出し	• 目的・背景を踏まえ、 検討の全体像に追加すべき点はあるか • 対応策検討の際の考慮要素の整理をどう考えるべきか • データ越境のパターン・リスク等の各要素に追加すべきものはあるか • 代表的な例として、取り上げるべき実例はあるか
第2回 (本日)	• 事例のご紹介・プレゼン • ステップごとの議論 　- ❶リスク可視化 　- ❷評価・意思決定 　- ❸実行・管理	• データ越境に伴い発生するリスク及び対応策の紹介 　- 特に大きなリスクに対する有効な「打ち手」の実例 • 「打ち手」のあり方の方向性の検討 　- 組織・オペレーション的に有効な打ち手の検討 　- 越境するデータに関する契約において、どのような項目が含まれるべきか 　- 特に有効な技術の活用事例のインプット
第3回 (9月下旬)	• 事例のご紹介・プレゼン • 第2回の残論点に関する議論	
第4回 (11月中旬)	• 取りまとめの骨子案・記載内容の確認 • 本検討の国内外への周知のあり方の議論	• これまでの議論が過不足なく反映されているか 　- ユーザーにとって分かりやすい記載となっているか • 取りまとめた内容を、誰に、どのように打ち出していけると良いか

本日のプレゼンテーション・事例のリスト

- データ越境の具体的な事例・関連動向として、下記内容についてご紹介をいただく

スピーカー	プレゼン・事例概要
① 浜田委員（三菱電機）	Factory Automation（センサー・製造機器）におけるデータ越境
② 石原委員（日立製作所）	器機制御装置からデータ越境及び、EUデータアクトの影響
③ 土屋様（富士通）	サプライチェーンリスクマネジメント及び、GHG可視化におけるデータ越境
④ 石井委員（トヨタ自動車）	サプライチェーンに跨るCFP/企業デューデリジェンス可視化におけるデータ越境 （ウラノスベースのSCデータ流通基盤）
⑤ 中島委員（RRI）	産業データ動向と欧州のデータ規制
⑥ 鈴木委員（日本オラクル）	クラウドサービスを利用したデータ越境とデジタル主権

本日の議論ポイント

- 個別事例の内容を踏まえ、データ越境マネジメントの考え方に取り込むべき視点及び、特に留意すべき越境パターン・リスク及びその対応策について議論を行いたい

A. 国際データマネジメントの考え方で、追加で考慮すべき観点はあるか？

① 越境・リスク可視化で、ステークホルダ/データ/手段以外に、考慮すべき要素・観点はあるか
② リスク評価にて、判断軸として有用な観点はあるか
③ 対応策にて、モニタリング・事前・事後対応以外に、追加すべき対応カテゴリーはあるか

B. 特に留意すべき越境パターン、それに付随するリスク及び有用と想定される対応策は何か？

① 発生の蓋然性が高く、発生時のインパクトが大きいデータ越境リスクは何か
  - 当該国の国内法・規制
  - 取引先企業との間での機密情報の漏洩、目的外利用など
② それはどのような場面で、特に発生しやすいか
③ 特に有効と想定される措置は何か(モニタリング・事前対応・事後対応)

データの国際流通・越境に係るマネジメントステップの全体像

- 本SubWGでは、越境データマネジメントについて、①リスク可視化、②評価・意思決定、③実行・管理の観点に分解して議論する。

	① リスク可視化	② 評価・意思決定	③ 実行・管理
プロセス	1-1 データ越境のトランザクション（**パターン**）の整理 1-2 データ**ライフサイクル**の段階に応じたリスクシナリオの整理 リスク可視化（トランザクション・ロケーション/ライフサイクル・リスクシナリオ）	2-1 可視化されたリスクについて**インパクトの観点から評価**し、優先度と方向性を整理 リスク評価（インパクト）	3-1 優先リスクに対して「打ち手」を策定・実行（モニタリング/事前対応/事後対応） モニタリング（予兆把握・発生確認等） 事前対応（発生確率低減・インパクト低減等） 事後対応（保護措置、責任追及、再発防止等）
全社組織・体制	ステークホルダーの責任・所掌＋体制		レポートライン・会議体（報告会・連絡会）
全社IT・システム	データベース・システム基盤	リスクモニタリングダッシュボード	分析基盤 ・・・

打ち手のカテゴリー（案）

- 打ち手として予兆・発生を検知する「モニタリング」、リスク予防・インパクトを低減する「事前対応」、発生後の回復を行う「事後対応」を想定

凡例：組 組織的対応/ 法 法的対応/ 技 技術的対応

モニタリング

リスク発生の疑い・予兆を把握	組 法規制を起因とした予兆の把握（政策の検討情報など） 組 企業を起因とした予兆の把握（不振な挙動モニタリングなど）
リスク発生の有無を把握	組 リスク発生件数・実績の把握（法の執行件数、組織内発生件数など）

事前対応

リスク発生確率を下げる・予防	組 ガイドラインの策定、保管場所・サービスの選定 法 データ取り扱いに関する契約の締結 技 アクセス制限や持ち出しの制御
発生時のインパクトを低減する	法 データ取り扱いに関する契約の締結 技 データの保護・暗号化

事後対応

保護措置、責任追及	組 リスク発生のインパクト把握、初動対応 法 契約・法令に基づく、保護措置・責任追及
再発の防止	組 社内業務・利用サービスの変更 法 契約の見直し

オープニング

- 第1回の振り返り
- 本日の議論ポイント
- プレゼンテーション・事例の一覧

プレゼンテーション・事例のご紹介

全体ディスカッション

今後の進め方、クロージング

再掲）本日のプレゼンテーション・事例のリスト

- データ越境の具体的な事例・関連動向として、下記内容についてご紹介をいただく

スピーカー	プレゼン・事例概要
① 浜田委員（三菱電機）	Factory Automation（センサー・製造機器）におけるデータ越境
② 石原委員（日立製作所）	器機制御装置からデータ越境及び、EUデータアクトの影響
③ 土屋様（富士通）	サプライチェーンリスクマネジメント及び、GHG可視化におけるデータ越境
④ 石井委員（トヨタ自動車）	サプライチェーンに跨るCFP/企業デューデリジェンス可視化におけるデータ越境 （ウラノスベースのSCデータ流通基盤）
⑤ 中島委員（RRI）	産業データ動向と欧州のデータ規制
⑥ 鈴木委員（日本オラクル）	クラウドサービスを利用したデータ越境とデジタル主権

オープニング

- 第1回の振り返り
- 本日の議論ポイント
- プレゼンテーション・事例の一覧

プレゼンテーション・事例のご紹介

全体ディスカッション

今後の進め方、クロージング

（再掲）本日の議論ポイント

- 個別事例の内容を踏まえ、データ越境マネジメントの考え方に取り込むべき視点及び、特に留意すべき越境パターン・リスク及びその対応策について議論を行いたい

A. 国際データマネジメントの考え方で、追加で考慮すべき観点はあるか？

① 越境・リスク可視化で、ステークホルダ/データ/手段以外に、考慮すべき要素・観点はあるか
② リスク評価にて、判断軸として有用な観点はあるか
③ 対応策にて、モニタリング・事前・事後対応以外に、追加すべき対応カテゴリーはあるか

B. 特に留意すべき越境パターン、それに付随するリスク及び有用と想定される対応策は何か？

① 発生の蓋然性が高く、発生時のインパクトが大きいデータ越境リスクは何か
- 当該国の国内法・規制
- 取引先企業との間での機密情報の漏洩、目的外利用など

② それはどのような場面で、特に発生しやすいか
③ 特に有効と想定される措置は何か(モニタリング・事前対応・事後対応)

オープニング

- 第1回の振り返り
- 本日の議論ポイント
- プレゼンテーション・事例の一覧

プレゼンテーション・事例のご紹介

全体ディスカッション

今後の進め方、クロージング

次回以降の想定アジェンダ

- 本日を含む全4回のSubWGを通じて、以下の順で議論を進めることを予定。

	議論の流れ	論点
第1回 (5月30日)	• 前提・背景の確認 • 議論のスコープや方向性の議論 • データ共有・活用の類型の確認・議論 　- 実例の洗い出し	• 目的・背景を踏まえ、 検討の全体像に追加すべき点はあるか • 対応策検討の際の考慮要素の整理をどう考えるべきか • データ越境のパターン・リスク等の各要素に追加すべきものはあるか • 代表的な例として、取り上げるべき実例はあるか
第2回 (本日)	• 事例のご紹介・プレゼン • ステップごとの議論 　- ❶リスク可視化 　- ❷評価・意思決定 　- ❸実行・管理	• データ越境に伴い発生するリスク及び対応策の紹介 　- 特に大きなリスクに対する有効な「打ち手」の実例 • 「打ち手」のあり方の方向性の検討 　- 組織・オペレーション的に有効な打ち手の検討 　- 越境するデータに関する契約において、どのような項目が含まれるべきか 　- 特に有効な技術の活用事例のインプット
第3回 (9月24日)	• 事例のご紹介・プレゼン（続き） • 第2回の残論点に関する議論	
第4回 (11月中旬)	• 取りまとめの骨子案・記載内容の確認 • 本検討の国内外への周知のあり方の議論	• これまでの議論が過不足なく反映されているか 　- ユーザーにとって分かりやすい記載となっているか • 取りまとめた内容を、誰に、どのように打ち出していけると良いか